

きくちだいじろうどうしかい  
菊池大二郎同志会だより

第3号 平成27年2月5日発行

い じりつ  
活かしていく村山，自立する村山へ。

かけがえのない  
そして，オンリーワン村山へ。

① 「活かしていく村山」とは。

変えよう。変えたい。それは、きっと誰しもの思いです。

そして、「変えよう」とただ言葉に出すのは、何十年も前から同じこと。

大事なものは「どうやって」変えていくのか、ということではないでしょうか。

菊池大二郎は、村山に「今」実際にある、次の3つの恵（めぐみ）を活かして、県政と連携して、全国、そして世界に村山の活（い）きる道を見いだして参ります。

**人の恵**

人は生まれて、そして死にます。その間に多くの人や物に出会い、夢や希望を持ちながら失敗して多くを学び、一生懸命働いて生活しています。そこで、「人の恵」とは、そうした人生になぞらえて「人と人との出会い（観光・移住・結婚など）」「人から学ぶ（教育・出産・子育てなど）」「人と共に働く（雇用・経営・起業など）」といった分野で発揮されるものと考えます。

**知の恵**

「知の恵」とは、読んで字のごとく知恵や発想のことです。今まで埋（う）もれてしまってきたような考えや若い方々の大胆な発想、そして古き良き村山を知る先人・先輩方の教え（知恵）にきっと村山の生きるヒントがあると信じます。まずは、そういったお声が出やすい雰囲気づくりを目指します。それが政治の原点だと考えます。

**大地の恵**

菊池大二郎の考える「大地の恵」とは、村山で実る農産物や畜産物、市内を縦断する最上川、そして里山や田畑、景観など、いわゆる自然の恵のことです。

何もないなら、何もないことすら活かせばよい。

大事なのは、発想や価値観の転換ではないでしょうか。

② 「自立する村山」とは。

人の個性、考え方、性格が十人十色であるように、市町村、都道府県も同じことが言えるはずですが、近隣の市町村に学ぶべきとことも多いのは事実ですが、風土や

環境、地理、文化などが違う以上、単純に比較するのはいかなるものなのでしょうか。

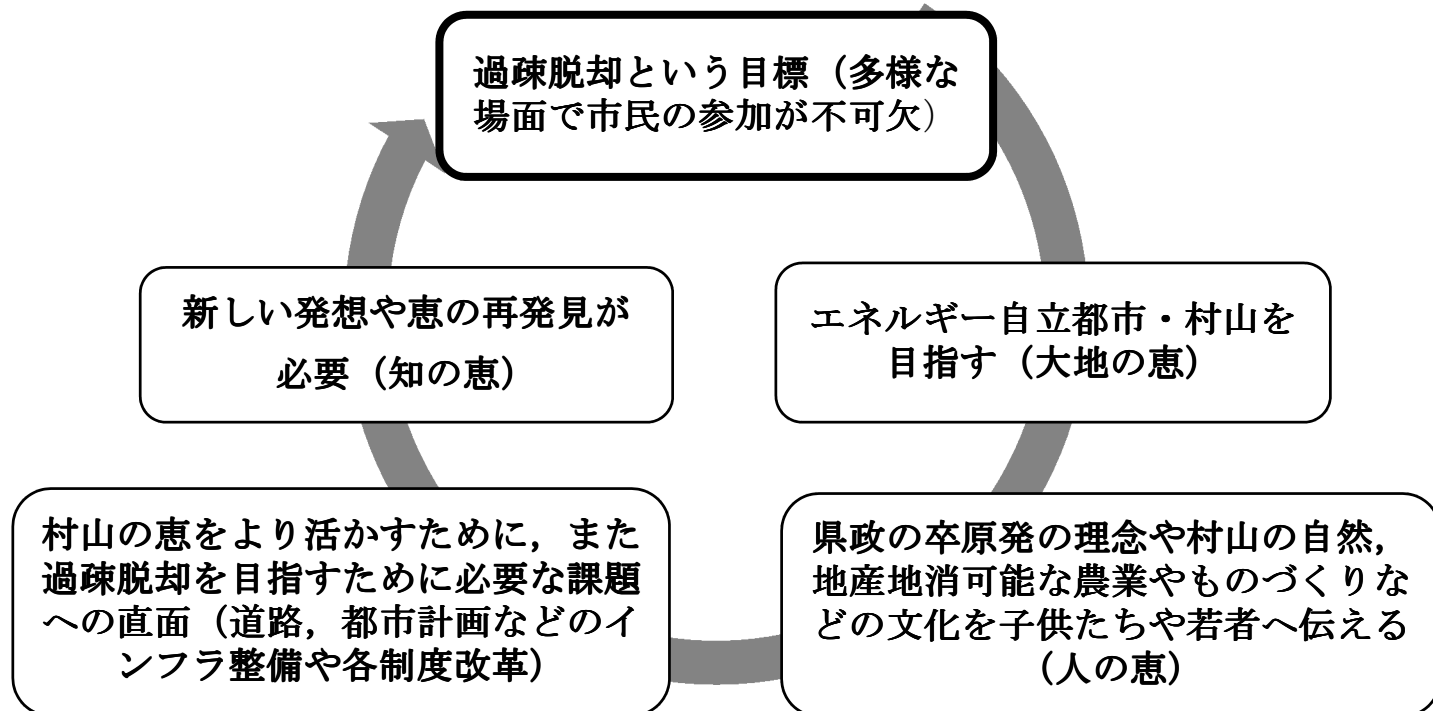
例えば、先に挙げた大地の恵を活かして、火力、太陽光のみならず、最上川の水力、豊富な土地を活かした風力エネルギーの導入を検討し、自然エネルギーで自立していくことや市民県民を巻き込んで真剣に議論して村山にあった独自の農業方式で自立していくこと、その他観光、移住、結婚、雇用、子育て（産後）、教育、障害者支援のあらゆる場面での今後のあり方について、現に村山で生活する市民の声に合った制度づくりに県政の立場から力強くサポートしていきます。

### ③「オンリーワン（かけがえのない）村山」へ。

市外・県外・国外の方々に村山をかけがえのない場所だと感じてもらうためには、**産**（民間産業）**官**（行政）**学**（研究機関）**金**（地元の金融機関）に加え、**民**（そこに生きる人）が共通の目標をもって議論を出し合いながら結束して歩みを進めることが大事だと考えます。そして、私の考える共通の目的とは何か。それは、**過疎脱却（かそだっきゃく）**です。もちろん容易ではなく、不可能と言われるほど厳しい難題です。ですが、私は、先に挙げた3つの恵の連携・連動に本気で民（そこに生きる人）が加われば、成し得る目標であると切に信じます。

れんけい れんどう

#### 3つの恵の連携・連動のイメージ（たとえ）



### 最後に

愛すべき村山がいつまでも故郷を思う者たちの受け皿であり続けるために。  
生まれ育った村山に子供たち・若者たちが誇りを持ち続けられるために。  
都会に出て行った者たちが望んで帰ってきたいと思えるために。

そして、何より今ここに住む我々一人一人が「村山に住んでいて良かった」と心から思えるために。本気で県政の立場から過疎脱却を目指す。それが、今ここに息づく有権者2万2000人の使命でもあると強く信じて前へ進んで参ります。

以上